会報 安曇野教育

第５５号

発行所　安曇野市教育会　　発行日　平成 29 年 6 月 30 日
発行人　丸　山　福　一　　題　字　川　田　　殖
編　集　会 報 委 員 会

つながりを大事に、共に学び続ける

会長　丸山　福一

五月二十日（土）、安曇野市教育会総会が本年度は豊科公民館ホールを会場として開催されました。多くの会員の皆様にご参集いただきありがとうございました。

講演会では、ＮＨＫ解説委員室解説主幹の山﨑登先生に「防災教育が社会を変える～最近の災害取材から～」と題してご講演をいただきました。多くの災害現場に立ち、足で歩いて現地の状況や地域の方々の声から取材を重ねられた山﨑先生のお話は、今後私たちが地域の方々と共にどのような取組を考えていけばよいのか、貴重な示唆を与えてくださったと思います。

明治二十一年（一八八八年）に南安曇教育会として発足した本教育会は、来年度、平成三十年度に百三十周年の節目を迎えます。公益社団法人としてはスタートから六年目を迎えた安曇野市教育会。明治の発足から平成の公益法人化を経て、安曇野市教育会は多くの先輩方の熱い思いとご尽力により現在に至っております。常にその原点に立ち返りつつ、日々の歩を一歩一歩進めていきたいものと思います。私たちの定款に記されている本会の目的は、次のように表すことができます。改めて立ち戻ってみたいと思います。

一、会員が心を合わせて教育精神を高める。
二、会員の職能向上に努める。
三、教職員全体の職能向上に寄与する。
四、郷土の教育を推進する。
五、平和日本と世界文化の建設に貢献する。

昨年度から始まった「研修日」の活動を継続し、会員の横のつながりを大切に、同好会の活動を一層活発にしながら職能の向上を目指してまいります。学校、校種を越えて互いの顔が見えるつながりを宝に、共に学び続ける姿を大切にしていきたいと思います。互いに手を携えて精進していけるよう、教育会としてその役割を果たしてまいりたいものと思います。

安曇野市教育会は、来年度の百三十周年に向けて、本年度より記念事業への取り組みを本格化させてまいります。今年一年間、会員の先生方の今まで以上の教育会へのご理解とご協力をお願いいたします。

平成２９年度安曇野市教育会役員・会務の分担

役　職	氏　名	所　属	会　務　分　担
会長（代表理事）	丸山　福一	穂高南小	会務統括　【教育課題委員会担当】
理　事	宮下　正	事務局	会務全般
理　事	三澤　晴男		会務全般
監　事	伊藤　和子	明南小	
監　事	百瀬　新治		
常任委員長	清澤　栄三	豊科南中	会務全般
常任副委員長	細萱　稔	豊科東小	会務全般　【会誌編集委員会担当】
常任委員	丸山　広樹	豊科南小	調査研究　【人権教育委員会担当】
常任委員	窪田　博之	穂高西中	調査研究　【人物読み物委員会担当】
常任委員	坂槙　邦章	堀金小	講習行事　【キャリア教育委員会担当】
常任委員	小林　栄子	穂高西小	講習行事　【図書館教育委員会担当】
常任委員	白鳥　郷史	堀金中	広報　郷土文化財センター【郷土文化財センター運営委員会担当】
幹　事		豊科南小	会務全般　【展覧会運営委員会担当】
幹　事		穂高北小	調査研究　【社会科資料集編集委員会担当】
幹　事		豊科南中	調査研究　【環境教育委員会担当】
幹　事		穂高西小	講習行事　【木村素衛委員会担当】
幹　事		穂高南小	講習行事　【情報委員会担当】
幹　事		明北小	広報　郷土文化財センター【会報委員会担当】
事務局長		事務局	
事務職員		事務局	
議　長		豊科北小	
議　長		豊科南小	
信濃教育会常任委員	丸山　福一	穂高南小	
信濃教育会代議員	清澤　栄三	豊科南中	
信濃教育会代議員	細萱　稔	豊科東小	

平成二十九年度 教育会総集会開かれる

平成二十九年度安曇野市教育会総集会が、五月二十日（土）二時三十分より、豊科公民館大ホールにて開催された。

音楽同好会の先生方による『いのちの歌』の素晴らしい混声合唱で幕を開け、市制十周年を記念して一昨年に作られた安曇野市歌『水と緑と光の郷』を引き続き全員で斉唱した。

丸山福一会長は挨拶の中で、南安曇教育会から数えて来年度で百三十周年の節目を迎える安曇野市教育会が、昨年度新たに設けた研修日について触れ、「研修日の活動を継続し、会員同士の横のつながりを大切にして、活動をさらに活発化しながら職能の向上を目指していきたい」とまず話した。定款に基づいて組織された今年度役員紹介の後、「この総集会が、安曇野の子どもたちのために自分自身を高めようという強い気持ちで参加した先生方にとって、教職員としての専門性を高める貴重な機会となることを心から願う」と結んだ。続いて、信濃教育会会長後藤正幸様、安曇野市教育委員長橋渡勝也様からお祝いの言葉をいただいた。

開会行事に続いて、「ＩＣＴ夢コンテスト２０１６」で宮島龍興記念教育賞を受賞した　先生による研究発表と、ＮＨＫ解説委員室解説主幹の山崎登先生の講演会が行われた。

～会員研究発表～

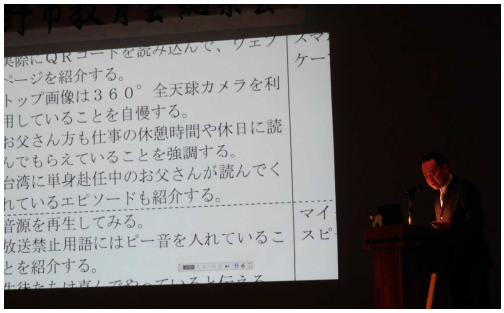
言語活動の充実に向けた新メディア学級通信づくり

先生（豊科南中学校）

会員研究発表では「新メディア学級通信」についての実践が発表された。今までの経験から、生徒たちの「コミュニケーション能力不足」に危機感を感じていた　先生は、コミュニケーションツールとして「学級通信」を学級経営の中核とし、また保護者との関係づくりにおいても、どの様な学級通信が良いのかを追究し続けた。

学級通信の内容として、最も重視したのは生徒の日記からの引用である。生徒の言葉によって伝えることで、コミュニケーションツールとしてのサポートができると考えたからだ。また、不登校傾向のある生徒の絵を学級通信の挿絵にしているという工夫も話され、クラスの一員としてその個性を大切にしてきた結果、不登校生とクラスの生徒との関係がよくなったこともあるという。

しかし、このように学級通信を工夫しても保護者の手に届かなければ意味はない。そこで、多くの保護者はスマホを持っていることから、ネットで通信を読むという方法を考えた。紙面にＱＲコードを載せ、それを読み取ることでいつでも見ることができるデジタル版学級通信を作成した。デジタル版の良さは、確実に保護者が見ることができる他に、バックナンバーを見ることができる、掲載されている写真がモノクロではなく、すべてカラーで見られることだ。想定外だったが、生徒の父親や、海外へ単身赴任している父親も見られるという意外なメリットもあった。また、声の学級通信も紹介された。ＩＣレコーダーに声を録音し、それをネット上で聴けるというものだ。さらに、現在は紙面に載った写真にスマホをかざすと動画が動くというＡＲ動画学級通信作りにも取り組んでいる。



このように紙面から始まった学級通信が、新しいメディアへと発展したことで生徒同士のコミュニケーションツールとなり、言語活動の充実につながり、クラス作りの中核となっている。このような取り組みを続けながら、よりよい学級づくりと言語活動の充実に向けた学級通信を作っていくという今後の展望を語られた。

会員発表を聴いて

穂高南小学校

先生の学級通信の発表は、感動そのものでした。「学級通信は紙面」と当たり前に考えていたこと自体、恥ずかしくなりました。「お便り＝学校でのでき事を知ってもらう」という発想だった私は、「学級通信」を「学級通心」とし、「心と心を通わせる」ツールとしていることにも感銘を受けました。

アナログ紙面からデジタル文書、音声メディア、動く学級通信…受け取った保護者の方は、まるで自分が学校にいるかのように、子どもたちの様子を知ることができると思いました。実際に登山での音声を聞かせていただいて、子どもたちが生き生きと活動している様子がよく伝わってきました。

私も学級通信を通して、子どもたちの様子を伝えようと写真や日記などを載せますが、やはり「子どもたちの生の声」に勝るものはないと思います。先生の高度な技術をもっと詳しく学ばせていただく機会があればとても嬉しいです。

～講演（概要）～

防災教育が社会を変える
～最近の災害取材から～

ＮＨＫ解説委員室解説主幹
山﨑　登　先生

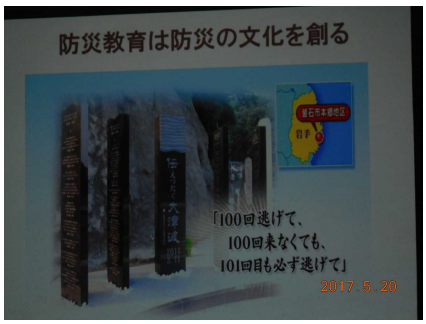
ＮＨＫ解説委員として自然災害と防災を担当し、今まで数々の災害を取材してきた私が、今、すごく感じていることは、皆の防災意識を高めること、そのためには地域の防災啓発が必要であるということである。

東日本大震災後に、大川小学校の津波裁判が行われた。この裁判での争点は、「津波は予測できたか」、「被害は防げたか」である。判決は、どちらも「できた」であった。しかし、宮城県のハザードマップでは、大川小学校は津波想定外の地域にあった。この裁判は私たちに、想定外のことにも備えておく必要があるということを伝えている。

別の例もある。岩手県釜石東中学校もハザードマップでは津波想定外の地域であった。だが地震直後、まず中学生が避難し始め、それを見て小学生も大人も逃げた。これが「釜石の奇跡」と言われている。なぜ子どもたちは逃げられたのか。それは子どもたちが、①想定にとらわれない、②最善をつくせ、③率先避難者になれ、という心得の防災教育を受けてきたからである。

東日本大震災が起きて、日本の防災の考え方が大きく変わった。防災に加え、減災という考え方も意識されるようになった。防災は、堤防を例にとると、もっと高い堤防を作り被害を防ぐ考え方である。しかし、お金がかかり、また景観も悪くなるという課題が残る。減災は、堤防だけに頼らず避難して被害を減らすという考え方である。だが、いざとなったら自分の力で命を守る行動ができるかどうかが鍵になるので、減災の方が課題は多いのである。

日本は地震の活動期に入った。一番恐れているのは、関東大震災である。地震の周期によると、次の関東大震災まではあと七十年くらいある。しかし、大きな地震の前にはそれより一回り小さい地震が起きることもわかってきているので、これから先は、マグニチュード七クラスの内陸の地震が何回か起きると考えられる。この長野県にも糸魚川静岡構造線があるので、地震が起こる可能性は十分考えられる。



災害は、地震だけではなく台風もある。昨年八月の台風十号は、太平洋側から北上して東北まで入り込んだ観測史上初の台風となった。これには、海水温度の上昇が関係していると思われる。

私は、地球温暖化による気象への影響はあると思っている。温暖化になると、台風は強く雨は激しく、雪は降る時にはたくさん降るというように、一つひとつが激化する。そして、このような現象は、河川の氾濫や土砂崩れ等の災害を引き起こしやすくするのである。

このように災害が起こると、学校は避難所になる。避難所の運営は先生や行政がやってくれると思われているが、避難所は被災者が助け合いながら運営するものなのである。

防災教育は社会を変える力があると思っている。防災には、地域性がある。地域を知ることが防災の始まりであり、その地域にあった防災教育を続けていけば何十年も引き継がれ、この国に防災の文化を創っていく。防災の文化とは何か。釜石市の石碑に刻まれた後世に伝えたい言葉の一つにこのようにある。「百回逃げて、百回来なくても、百一回目も必ず逃げて」。私は、防災の文化とは、この言葉のような力を持つ社会を創ることだと思う。人は災害に対して無力ではない。

山﨑先生の講演をお聴きして

穂高西中学校

「釜石の奇跡」、東日本大震災であった本当の話だ。山﨑先生から中学生や小学生がとった行動について教えていただき、防災教育の大切さを改めて学んだ。避難放送が入る前に避難を始めていた生徒たち。その行動力に驚かされた。

東日本大震災を機に防災の考え方は、「減災」へと移ってきているという。減災を進めるには、地域社会の意識向上が大切である。地域の歴史と一緒に防災教育を行うことで、その地域で生きていく知恵をつける。これが、釜石の奇跡を生んだのだろう。防災教育は確実に社会・地域を変える力があると感じた。

安曇野市は、糸魚川静岡構造線の上にある。しかし、ほとんどの人が大きな災害は無いと考えているだろう。もし大きな災害が起こったら、釜石の奇跡のように、安曇野の奇跡となるだろうか。私自身、学校で先生方や生徒たちと共に、釜石の生徒たちのように、地域の歴史と一緒に自分たちができる行動について考えていきたい。

各種委員会年間活動計画

子どもたちの成長を後押しする各種委員会活動

担当常任委員　丸山広樹

安曇野市教育会の事業の中でも特に大事にしている活動が、各種委員会の活動です。各種委員会は、次の三つの委員会で構成されています。一つ目は、安曇野の子どもたちが直面している教育課題に対して調査等を行い、より良い教育のあり方を研究する「調査研究委員会」です。二つ目は、子どもたちの学習資料やリーフレットの編集・作成、安曇野の先人の文献研究、あるいは、展覧会の運営や機関誌発行等に関わる「特別委員会」です。そして、もう一つは、会報やホームページ等によって教育会の活動を内外に発信することを担う「広報委員会」です。調査研究委員会には四委員会、特別委員会には七委員会、広報委員会には二委員会の合計一三委員会があり、本年度は七十四名の先生方によって活動が進められています。

各種委員会の活動やその成果は、安曇野の子どもたちの成長を後押しし、安曇野教育を一層充実させるものであると確信しています。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

◎委員長○副委員長
・委員
▽研究テーマ　▼内容

調査研究委員会

教育課題委員会

「安曇野市体力向上委員会」としても活動

▽①安曇野市の子どもの健康や体力・運動能力の現状を理解し課題と原因を考える。
②健康・体力・運動能力の向上や生活習慣改善のための具体的方法を検討し、提言する。
③幼保小中が連携・一貫して取り組む方策を検討し提言する。

▼①生活習慣の実態と改善
②運動環境の改善・充実
③講演・研修・幼保小中の連携
④体育授業の改善・充実
⑤啓発活動の推進

人権教育委員会

▽豊かな人権感覚を育てるための指導のあり方

▼①各学校の実践を集めて資料集に資料を追加し、内容を充実させる。
②小中学校のつながりを考慮に入れ、内容を検討していく。
③人権教育強調月間等で扱う内容や講演会の情報を集め、各学校で活用できるようにまとめる。

図書館教育委員会

▽学習・情報センターとしての機能を果たす図書館において、図書館資料を使っての学習活動の充実を図るための担任、司書教諭、図書館司書の連携のあり方について考える。

▼①図書館資料を使っての学習活動の実践や取り組みについて研究し紹介する。
②各校の司書教諭・図書館教育係・図書館司書の先生方との研究協議会を開催し、授業を提案して、各校や先生方との連携を図る。

環境教育委員会

▽環境に配慮する行動の促進と環境問題に対する理解を深めることを目指す環境教育の在り方

▼①安曇野環境フェアの環境活動発表会やブース展示に出展し環境活動の輪が広がるように努める。
②安曇野市内の各校での環境教育に関わる授業実践や取り組みについて研究し、実践事例などを紹介していく。
③今年度から各校で実施されているエコアクション21への取り組みについて研究し、持続可能なサイクルの確立に向けて、反省や改善点を整理していく。

特別委員会

社会科資料集編集委員会

▽安曇野市の子どもたちが、自分たちの住んでいる地域を体験的に学習できる社会科資料集を編集する。

▼①生活の基盤「複合扇状地」の土地利用と人々の営みについて研修し、学習に活用できる安曇野巡検の実施。
②三十年度版資料集作成に向けてデータの更新、資料収集、写真撮影。写真を多用し子どもたちが身近に感じ、活用しやすい資料集の作成。
③社会科学習に生かせる資料や情報の提供。

キャリア教育委員会

▽安曇野におけるキャリア教育の現状と展望
～望ましいキャリア教育の進め方と指導方法のあり方を探る～

▼①「進路指導資料集」の内容検討、改訂版作成、頒布。
①各学校のキャリア教育の実際について調査活動を行い、課題について検討していく。また、キャリア教育の四つの視点をもとにした授業実践の分

析と考察を行い、キャリア教育の成果と今後の課題を明らかにしていく。

人物読み物委員会

▽安曇野の偉人(人物)について調査研究し、児童生徒への教材化を視野に入れながらその業績をまとめる。

▼務台理作先生について、講師の先生にご指導いただきながら、調査研究を深める。人柄や人間性にも触れながら、務台先生から何を学ぶのか、今の教育に伝えていくべきことは何か、という視点に立ち、信濃教育特集号「わがふるさとの教育を支えた人々」の原稿執筆を行う。

木村素衛委員会

▽木村先生の日記等遺稿文献の整理・研究を通して、安曇野市教育の拠り所である木村先生の徳を追慕し、その生き方を学ぶ。

▼①多くの一般会員に木村先生の教育愛にふれてもらえるように、先生の日記No.42とNo.43を現代仮名遣いに書き換え、資料として保存していく。

②「安曇野の先人等に学ぶ会」や会報・ホームページ等で木村先生の日記について読み合わせや紹介を行い、木村先生の徳を伝えていく。

郷土文化財センター運営委員会

▽センター内の所蔵品の維持管理を進める。本年度はリーフレットの改訂→印刷→配布まで進める。また、教育会の諸行事に併せて常設展示の工夫をすると共に、会報を通して広報活動を行う。

▼①新任者歓迎研修会や安曇野の先人等に学ぶ会、哲学講座に併せ、センター開放日を設定。展示を工夫し、多くの会員が見学できるようにする。

②調査した所蔵品等について、会報の「郷土の文化財」コーナーで紹介する。

展覧会運営委員会

▽科学展・書道展・図工美術展・ものづくり展を開催し、市内の児童・生徒の自然事象への興味関心を高めるとともに、表現・製作活動への意欲高揚を図る。

▼同好会等と連携しながら、教育会主催の四大展覧会の作品募集と審査、展示を企画運営する。入選者には賞状を授与する。

会誌委員会

▽安曇野市教育会の会誌「安曇野教育」第十二号を発行し、会員の教育実践や研修内容を会員や地域の方に知っていただく。

▼会員の「教育実践」「研究実践」「心に残る一言」「青年教師の主張」などの他、本教育会独自の「巻頭座談会」やシリーズ「先輩こんにちは」「安曇野遺産」、県外視察の報告「視察紀行」など掲載する計画である。現在は原稿の執筆依頼の段階に入っており、発刊は例年通り二月末を予定している。

広報委員会

会報委員会

▽会報「安曇野教育」の編集・発行を行う。本教育会の行事や事業内容、各種委員会の様子や同好会の様子について掲載し、機関紙としての使命を果たす。

▼会報五十五号から五十八号の発行（七月、九月、十二月、三月の予定）。また、必要に応じて速報を発行する予定。

情報委員会

▽安曇野市教育会に関する情報提供のサポート。

▼①安曇野市教育会ホームページの更新作業。

・会報の公開（個人情報の削除と校正）

・人物読み物委員会の資料公開

・基本データその他の加除修正

・情報教育に関する資料の紹介や更新

②安曇野市内各小中学校のホームページチェックやネットパトロール。

③情報モラル教育の推進啓蒙。

東西南北　安曇野ふらふら

休日に何を優先しても出かけていくのが、教え子からの毎年行われている「安曇野スタイル」への出品連絡や、定期的に行われる「作品展」へのお誘いです。

作品の良さや値段の手ごろさから作品を買ってくることもあるのですが、会場が喫茶店であったりする時は、飲み物を飲みながら作品の説明を聞いたり、本人や同級生の近況を聞いたりするのがとても楽しい時間です。

柄にもなくいろいろな作品を見て歩く楽しさを感じはじめると、安曇野市にある多くの博物館や美術館の催しにも関心が出て、常設展だけでは腰の重い私も特別展などと言う言葉を聞くと、ふらっと出かけていきたくなります。

関心の無い時には開催の情報にも意識が向かなかったのに、少し関心を持つと情報に敏感になり催しが目にとまるようになります。

東西南北、安曇野市をふらふらすることで、安曇野市のことについてもう少し知りたくなったので、昨年度は安曇野検定にもチャレンジしてみました。

（豊科北小学校）

初任者歓迎研修会

安曇野市に新たに赴任された先生方を対象にして、初任者歓迎研修会が五月二十九日（月）、南安曇教育文化会館で開かれた。

会に先立って、館内にある郷土文化財センターと視聴覚教育協会を見学し、来年百三十周年を迎える伝統ある教育会に所蔵されている多くの文化財や所蔵されている視聴覚教材について担当の方から詳しい説明を受けた。

研修会では、まず主催者、初任者の順に自己紹介を行い、初任者はこの二ヶ月の感想等を発表した。「給食がおいしい」「アルプスがきれい」「仕事が多く忙しいが、子どもの目の前に立つと元気が出る」など、新しい環境での日々新鮮な体験や感動が紹介された。そして丸山福一会長が、「市内の仲間との出会いの場を大切にして、これからのエネルギーにしてほしい」と挨拶した。次に、安曇野市教育委員会中村真市指導室長と信濃教育会研究調査部長小柳廣幸先生が、それぞれ温かい励ましの言葉で挨拶された。

その後、三人の先輩方が、歓迎の言葉を贈った。

先生（豊科東小）は「仕事と家庭の両立」について、仕事も家庭も中途半端ではないかと悩むこともあるが、教師だからこそ感じられる醍醐味を励みに、学校でも家庭でも助け合うことが大切だと話した。

先生（堀金中）は、現在の初任校で生徒からの指摘を謙虚に受け入れたこと、初めての担任で大変なこともあるが、素直な生徒に囲まれ毎日学校に行くことが楽しいことなど、生徒との関わりの中で感じたことを話した。

先生（穂高西中）は、今までのあゆみをスライドで紹介し、初めてクラスを持った時の喜び、特別支援学級を担任した時の生徒への関わりの工夫、それらの経験が現在の学級経営に生かされていることなどを話した。

最後に初任者を代表し、　先生（穂高西小）が多くの先輩から激励の言葉をかけてもらったことに感謝を述べ、「毎日忙しく、子どもたちに目を配れているか心配だが、優しく教えてくれる先輩方がいるので安心して取り組むことができる。これからも子どもたちの立場で考え、悲しみや喜びを共感できる教師になりたい」と決意を述べた。

初任者の先生方の紹介

初任者歓迎研修会に参加して

豊科南小学校

新学期が始まり、養護教諭として二ヶ月が過ぎました。この時期の保健室は、健康診断や子どものけが、病気などの対応であわただしく、一日一日があっというまに過ぎていってしまいます。自分のことで精一杯なところも多く、不安なことやうまくいかないこともたくさんありますが、子どもたちの笑顔や周りの先生方にいつも助けられ、ここまで頑張ってくることができました。そんな時、先輩方や同じ初任者の先生方の話を聞く機会をいただき、今までの自分はどうだったのか振り返り、これからこうしていきたい、こうなりたいなどの未来像をつかむことができました。周りの先生方から、たくさん良いところを吸収して、それを子どもたちに返していくことも大切だと感じています。

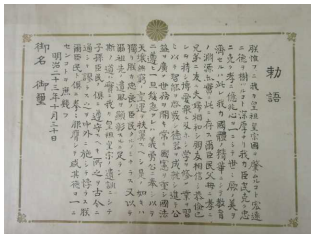
今回学ばせていただいた、目の前の子どもにまなざしを向けること、まわりに感謝すること、子どもと一緒に成長し続けることを忘れずに、これからも頑張っていきたいと思います。

郷土文化財35
「教育勅語」全文・・・あります！！

最近、ニュースで話題になった「教育勅語」。現代の教育現場では、ほとんど見かけることもありませんね。

教育勅語（きょういくちょくご）は、明治天皇の勅語（昔、天皇が国民に対して自分の考えを述べたことば）として発布されました。近代日本の教育の基本方針として一八九〇年に発布、一九四八年に廃止されました。

昭和初期、戦前の小学生は丸暗記して、全て言えたと聞いたこともあります。



「朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ（朕（ちん）惟（おも）フニ）我（わ）カ（が）皇祖（こうそ）皇宗（こうそう）國（くに）ヲ肇（はじ）ムルコト宏遠（こうえん）ニ德（とく）ヲ樹（た）ツルコト深厚（しんこう）ナリ）・・・」

戦時中、奉安殿（学校で天皇・皇后両陛下の写真と教育勅語が納められていた建物）に納められていたものを、先輩の先生方が「歴史的史料」として、この郷土文化財センターに保管していてくださったのだと思います。

本物を見たい方は、事務室にお声がけをお願いいたします。

（郷土文化財センター運営委員会）

編集後記

今年度最初の会報をお届けします。今後も機関紙として、教育会の活動の様子をお伝えしていきたいと思います。